

君が地球に居ないなら

佐伯実琴

君について考えていたことは、勘違いになりそう

君について感じていたことは、嘘になりそう

これから先はもうずっと

知らない人の似たような話で

上書きされていくだけなら

もう私の手には入らないなら

元から無かったのと一緒に！

なんて、投げやりになっている……

かもね

君の姿を思い出すとき、写真よりも楽しげに見えるのは

君の声を思い出すとき、探せば今も近くに居る気がするの

私が君のXXだからかな

私はそれだけに縋っていたような気がして

他の人が君について話すたびに思う

君に時間をあげて君と言葉を交わして、もっと……

とかね

そういえば

月にも海があって適当に魚が釣れるとかいう、噂

全然信じていなくてすっかり忘れていたけど

今夜から眺めてみようかな

8月に入ってから初めてベランダに出るんだけど

とかぶつぶつ言いながら

君の好きだった夏の空気に触れ、たら  
またほっぺが濡れてし、まう、苦しい……  
なんてね

どこかに置いてきたものは  
いつか取りに行かないといけないでしょ  
でも大抵はそのまま消えてしまみたいね  
フェスに着けていったヴィンテージのネックレス  
夜には消えてたけど  
お巡りさんは「身分証であれば」って繰り返してた  
だから許すとか、許さないとかじゃなくて  
拾った人にどこかで愛されることを願ってる  
今度は置いていかれないように大切に  
それだけ

地球ごと全部

私のもんなんだから

もし君が

宇宙の溪谷巡りにでも出かけているのなら

私はようやく本当の意味で、君との適切な対人距離をとれたのかもしれない  
君は私のもの、ではなかったけど

私は君のものになっても

誰かが通るまでの話し相手にくらい、なってあげても……

いいのね